



志賀直哉『暗夜行路』の草稿を新たに発見

我孫子市内の個人宅から、志賀直哉の小説『暗夜行路』の草稿（小説の下書き）が新たに発見されました。『志賀直哉全集』に納められていない、貴重な草稿です。

『暗夜行路』は志賀直哉唯一の長編小説として知られています。志賀は我孫子に住む以前の大正元（1912）年頃から執筆にとりかかり、試行錯誤を繰り返し、大正10（1921）年に『暗夜行路』前篇を発表しました。その過程で、多くの草稿が作られましたが、ほとんどが日本近代文学館に納められ、『志賀直哉全集』（岩波書店刊）に掲載されています。

今回発見された草稿は、市販のノートに書かれており、『暗夜行路』後篇の内容の一部と一致するものでした。また、このノートには当時の心境や手紙の下書き、家の間取り図なども書かれており、我孫子に住む直前の大正4年夏頃までに執筆されたものと考えられます。大正12（1923）年に我孫子を去るにあたって、交流のあった市内在住の小熊太郎吉氏に譲られたとみられます。

市では今年のお、市制55周年記念事業として、この草稿を白樺文学館で展示します。

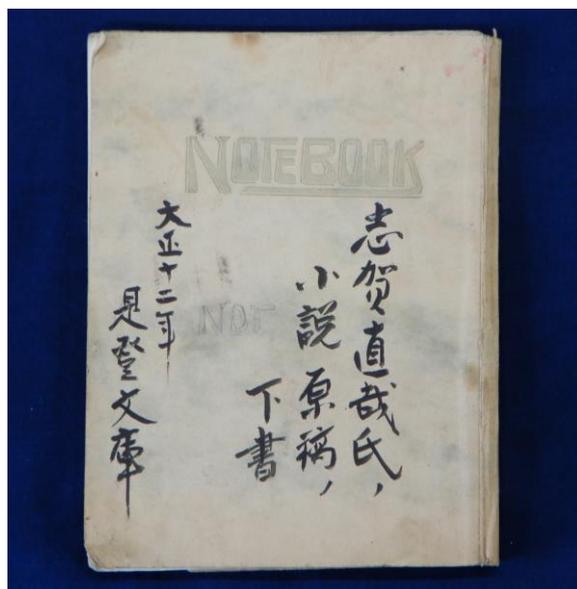
◎志賀直哉（しがなおや）

明治16（1883）年2月20日－昭和46（1971）年10月21日。

学習院の同窓生により創刊された雑誌『白樺』の中心人物。大正4（1915）年～12（1923）年に我孫子に在住。現在その住まい跡は「志賀直哉邸跡」として整備され、『暗夜行路』を執筆した書斎（我孫子市指定文化財）が残る。

◎『暗夜行路』（あんやこうろ）

雑誌『改造』の、大正10（1921）年1月号～8月号で前篇、大正11（1922）年1月号～昭和12（1937）年4月号で後篇が発表された長編小説。25年の歳月を要し、完結。



【問い合わせ】

我孫子市教育委員会生涯学習部
文化・スポーツ課

担当：辻、今野

電話：04-7185-1583